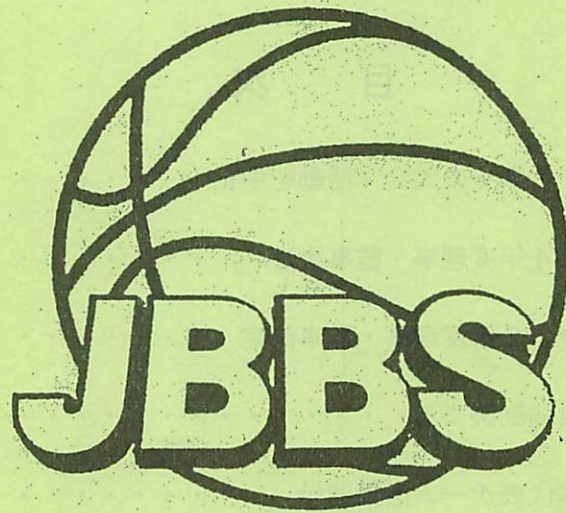


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:49



2011年4月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

東日本大震災により被災された方々に心からお見舞い申し上げます
とともに一日でも早い復興をお祈りいたします

このたびの東日本大震災では多くの方々が被災され、亡くなられた方は記録的人数となり、いまだに1万人以上の方が行方不明のままです。

また、震災による福島第一原発の事故でも多数の方々が避難を余儀なくされています。

バスケットボール界においても少なからず震災の影響を受け、ご承知のとおり大会・強化活動が中止されています。

編集部ではこれらのニュースをまとめるとともに、日本協会を始めとする各団体の役員改選最新情報をお知らせするために「バスケットボールプラザ」第49号を臨時に発行することにいたしました。

[編集部]

目 次

○ バスケットボール界でも多くの大会・活動を中止！	1
○ 日本協会平成23・24年度理事・監事決定	6
○ JBL2011・2012年度理事・監事決定	8
○ 日本実業団連盟新役員体制決まる	9
○ 平成23年度女子日本代表チーム活動開始	10

バスケットボール界でも多くの大会・活動を中止！

[編集部]

去る3月11日に発生した東日本大震災は、バスケットボール界にも多大の影響をもたらした。多くの全国大会や諸活動が中止となった。

日本協会

日本協会では、被害の甚大さ、余震の発生、計画停電、公共交通機関の混乱、体育館の被害や避難のための使用中止などがあって、観客、出場チーム、関係者の安全を確保することに不安が生じるため、3月中に予定されていた全ての主催大会および共催大会を中止するとコメントしている。

以下に中止となった主催大会についてお知らせします。

○第37回全日本クラブ選手権大会

3月19日～21日 於 静岡県浜松市

○第24回都道府県対抗ジュニア大会（中学選抜大会）

3月28日～30日 於 東京都渋谷区、埼玉県上尾市、千葉県市川市・浦安市
神奈川県藤沢市・川崎市

○第42回全国ミニ大会

3月29日～31日 於 埼玉県さいたま市さいたまアリーナ

更に予定していた各強化合宿などの活動も参加者に支障が生じているため中止となり、震災は日本代表の強化活動にまで影響を及ぼしている。

以下に中止された活動について紹介します。

○男子ユニバーシアード日本代表 第2次強化合宿

3月16日～19日 於 味の素ナショナルトレーニングセンター

○男子ユニバーシアード日本代表 第3次強化合宿（リトアニア遠征）

3月20日～29日 リトアニア

○男子U-16日本代表 第4次強化合宿

3月17日～19日 於 味の素ナショナルトレーニングセンター

○女子ユニバーシアード日本代表 第3次強化合宿

3月20日～22日 於 味の素ナショナルトレーニングセンター

○女子ユニバーシアード日本代表 第4次強化合宿（トルコ遠征）

3月23日～30日 トルコ

○女子U-18 トップエンデバー 強化合宿

3月24日～26日 於 味の素ナショナルトレーニングセンター

○女子U-18日本代表 第6次強化合宿（オーストラリア遠征）

3月26日～4月3日 オーストラリア

JBL

JBLではレギュラーシーズンリーグ戦の後半を迎えていたが、大震災の影響を受け以後の全ての試合を中止することを決断した。一時は一部試合の延期を発表して善後策を練っていたが、以下のような理由によりレギュラーシーズンの残り試合全てとセミファイナル、ファイナルゲームを中止することに決定したと公表している。

1. 依然として断続的な余震が発生しており、試合会場での来場者、チームの安全を担保できない。
2. 東京電力管内の計画停電の実施により、関東近辺における公式試合開催に支障をきたす可能性がある。
3. 同地震の影響により東日本の交通機関が麻痺しており、来場者およびチームの移動に支障がある。

上記理由の他、被災地の被害状況が明らかになっておらず、食料等の物資が十分に被災者の皆様に行き届いていない状況であること等を総合的に勘案した結果、今回の決定に至りました。

リーグ戦においてはファイナルに出場する4つの枠を争っていたチームもあったが、チームが所属する企業が甚大な被害を被ったところもあり、全試合中止とし2010-2011シーズンは3月6日終了時点での成績により順位を決定することにした。これによりレギュラーシーズンリーグ戦で中止された試合は168試合中24試合、セミファイナル、ファイナルゲームは最大で11試合が中止となった。

また、JBL2においても上記と同様の理由により、レギュラーシーズン7試合、セミファイナル、ファイナルで4試合の残り全試合中止を決めている。

これらシーズン途中での試合中止については、大震災の惨状からして比較的影響が少なかった東海地方や関西方面のチームにおいても反対はなかったという。

< JBL 2010～2011シーズン順位 >

第1位 アイシンシーホース

26勝10敗

第2位	パナソニックトライアーズ	26勝10敗
第3位	トヨタ自動車アルバルク	23勝13敗
第4位	東芝ブレイブサンダース	17勝19敗
第5位	日立サンロッカーズ	16勝20敗
第6位	リンク栃木ブレックス	15勝21敗
第7位	三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ	11勝25敗
第8位	北海道バスケットボールクラブ	10勝26敗

< JBL2 2010～2011シーズン順位 >

第1位	豊田通商ファイティングイーグルス	22勝 0敗
第2位	アイシン・エイ・ダブリュ アレイオンズ安城	16勝 7敗
第3位	TGI・Dライズ	12勝10敗
第4位	レノヴァ鹿児島	11勝12敗
第5位	石川ブルースパークス	11勝12敗
第6位	日立電線ブルドッグス	9勝13敗
第7位	豊田合成スコープオンズ	8勝14敗
第8位	黒田電気ブリットスピリッツ	8勝15敗
第9位	ビッグブルー東京	4勝18敗

WJBL

WJBLはファイナルゲームであるJX対トヨタ自動車の第1戦を3月10日に終え、3月12日に行われる第2戦の郡山会場でそれぞれのチームが練習をしているとき地震が起きた。強い揺れで体育館の天井に取り付けてあった物が床に落ち、ガラスが割れて雨あられのごとく床に降り注いだという。

同行していた本部役員からWJBL本部に体育館使用不能の連絡が入り、その後刻々と報道される被災状況を見て、協議の結果全てのファイナルゲームの中止を決定した。

12日のゲームのあと13日には代々木で第3戦が予定されており、代々木第二体育館は被害をまぬかれていたが、被災地の状況があまりにもひどかったので以後のファイナルゲームの中止を判断したようだ。

また、この決定についてはチームや関係者からは何の異論も出なかったという。その後緊急の理事会で、今シーズンの順位をセミファイナルまでの成績によって決めることと決定し、関係各所に公開した。

WJBLでは、すべてのファイナルゲームの中止について収入的にはマイナスもあるが、被災状況からみて“全てを中止”以外の選択肢はなかったと表明している。

これらJBLやWJBLの試合中止についてはNHKラジオがすぐに取り上げて全国に放送しているが、他のスポーツでもその後続々と試合中止やイベントの中止を決めている。

ファイナルゲームに臨んだ両チームは被害を受けた郡山市から自チームの本拠地へ帰るのに相当苦勞したそうで、トヨタ自動車はバスをチャーターし10時間以上を費やしてやっと東京へ到着したそうで、両チームスタッフや選手も相当なショックを受けたという。

以上のような状況から表彰式を行うこともできず、優勝カップなどの贈呈は専務理事がそれぞれのチームへ出向いて手渡すことにした。

未曾有の災害に対して、大きなイベントであるファイナルゲームを中止した即断に対して敬意を表するとともに、災害地の復興が一日でも早く進むことを願わずにはいられない。

<Wリーグの順位>

第1位	JXサンフラワーズ	26勝	2敗
第2位	トヨタ自動車アンテロープス	22勝	6敗
第3位	デンソーアイリス	19勝	9敗
第4位	富士通レッドウェーブ	15勝	13敗
第5位	日本航空JALラビッツ	12勝	16敗
第6位	シャンソン化粧品シャンソンVマジック	11勝	17敗
第7位	アイシン・エイ・ダブリュウイングス	4勝	24敗
第8位	日立ハイテックカーガーズ	3勝	25敗

<セミファイナルの結果>

トヨタ自動車アンテロープス	●	41-66	○	デンソーアイリス
	○	62-61	●	
	○	71-66	●	
JXサンフラワーズ	○	67-58	●	富士通レッドウェーブ
	○	73-68	●	

<WIリーグの順位>

第1位	三菱電機コアラーズ	13勝	3敗
第2位	トヨタ紡織サンシャインラビッツ	9勝	7敗
第3位	エバラヴィッキーズ	7勝	9敗
第4位	山梨クィーンビーズ	6勝	10敗
第5位	ビッグブルー東京	5勝	11敗

なお、Wリーグ8位の日立ハイテックカーガーズとWIリーグ1位の三菱電機コアラーズは2月27日から入替戦を行い、三菱電機コアラーズが2勝1敗の成績で勝利し次年度Wリーグへ昇格することが決まっている。

bjリーグ

bjリーグでは東日本大震災の後、仙台89ERS、埼玉ブロンコス、東京アパッチの3チ

ームが外国人選手やコーチなどの帰国により活動を中止したため、これら3チームにかかわる試合ができなくなったので、残ったチームで試合を続けている。

また、bjリーグとして今回の大震災の被害に対して自分たちにできることは何か？を考え支援に向けた募金活動はもちろんのこと残りの13チームで活動を続け、皆様に多くの笑顔と感動を与えることが一番の支援としている。

被災された地域・被災者の方々を励まし支援していく姿勢、bjリーグも共に頑張っていく姿勢、そして日本中が一つになり、この状況を乗り越えていこうという思いで、下記の復興支援スローガンを掲げて今後の支援活動に取り組むとしている。

<復興支援スローガン>

「共に、乗り越えよう。 ～bjリーグ～」

なお、活動を休止した球団のひとつである“東京アパッチ”では、人道的観点から活動休止理由を次のようにコメントしている。

- 福島原子力発電所の状況は現状安定傾向にあるものの、依然としてリスクがあると判断しています。東京アパッチ経営陣は、アドバイザーや米国国務省からの情報「米国国務省はアメリカ国民の日本への旅行の自粛を強く求め、日本に滞在しているアメリカ国民に出国を検討するように求める」を基本にスタッフの安全を確保するため、日本国内での移動を自粛し、日本人、外国人スタッフを問わず地元で待機することとした。
- 多くの東京アパッチ所属人員が地元へ戻ることを希望したこと。
- 東京アパッチが練習に使用している主な体育館が東北地方で被災された方々の受け入れ施設になることから練習の予約が全てキャンセルされたこと。第二の練習場であった体育館も不安定な電力供給を理由に全ての予約をキャンセルする旨連絡があったこと。
- 計画停電並びに予期せぬ大規模停電の可能性に加えて、政府、都政から電力消費量を控えるよう再三の要請を受けていること。
- 今回の危機に対応するため、文部科学省からプロスポーツ団体に関東、東北地方におけるナイター試合を控え節電に協力するように要請がなされていること。
- チーム運営に必要な物品（移動用のバン車やバスに使われるガソリン、水、氷、食料等）の使用を停止し、本当に必要としている人達に少しでも多くの物品が行き渡るようにするため。
- 他のスポーツ団体による活動の休止や延期。

また、震災復興のために“東京アパッチ”とその関係者から100万米ドル（約1億円）を被災地へ寄付すると次のように発表した。

「東京アパッチは、活動を休止するかわりに、親会社であるエボリューション・キャピタル・マネジメントとそのオーナー、マイケル・ラーチと共同で復興支援や支援団体への資金提供を行っていきます。この復興支援には元NBAスターであり元東京アパッチ監督のジョー・ブライアント氏や野球界の名士ボビー・バレンタイン氏も参加し、今回の震災で被害を受けられた人々を支援する活動に100万米ドル以上の寄付を行うことを目指しています。」と。

平成23年度女子日本代表チーム活動開始

[編集部]

日本協会は平成23年度女子日本代表候補選手を下記のとおり決定し、代表チームは8月21日から長崎県で開催される「第24回FIBAアジア女子選手権長崎/大村大会兼2012年ロンドンオリンピックアジア地区予選」に向けて5月連休明けから強化合宿に入る。

アジア女子選手権大会は、長崎県大村市体育文化センターシーハットで開催され、日本は下記のレベルIグループで戦い、優勝すればロンドンオリンピック出場権が与えられる。

[レベルI] 中国、韓国、日本、フィジー・タイペイ、レバノン、インド

主なスタッフ

役職	氏名	所属
チームリーダー	荒 順一	日本協会
ヘッドコーチ	中川 文一	日本協会
アシスタントコーチ	梅崎 英毅	山梨学院大学
アシスタントコーチ	トム・ホーバス	JXサンフラワーズ

候補選手

選手名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所属
三谷 藍	PF	182	68	32	富士通レッドウェーブ
小畑 亜章子	PG	165	56	29	デンソーアイリス
名木 洋子	SF	175	67	28	富士通レッドウェーブ
大神 雄子	PG	170	63	28	JXサンフラワーズ
畑 恵理子	PF	181	75	28	富士通レッドウェーブ
久手堅 笑美	PG	165	63	26	トヨタ自動車アンテロープス
鈴木 あゆみ	SF	180	69	25	富士通レッドウェーブ
諏訪 裕美	C	183	84	25	JXサンフラワーズ
藤原 有沙	SF	175	65	23	デンソーアイリス
吉田 亜沙美	PG	165	64	23	JXサンフラワーズ
川原 麻耶	SG	167	55	23	トヨタ自動車アンテロープス
高橋 礼華	SF	177	65	23	NSGグループ
大庭 久美子	SG	169	59	22	デンソーアイリス
高田 真希	C	183	74	21	デンソーアイリス
間宮 佑圭	PF	183	72	21	JXサンフラワーズ
渡嘉敷 来夢	C	191	78	19	JXサンフラワーズ
長岡 萌映子	SF	180	69	17	札幌山の手高校3年

日本協会は、4月14日に女子日本代表チーム活動開始記者会見を行い、強化活動方針などについて次のように発表した。

平成23年度は、何よりも日本開催となる『第24回FIBAアジア女子選手権 長崎／大村大会 兼2012年ロンドンオリンピックアジア地区予選』優勝を果たし、ロンドンオリンピック出場権を勝ち取ることが最大の目標となる。大会前は、長身選手を有する中国や韓国などとの対戦を想定し、ヨーロッパやオーストラリアなどへの海外遠征を組むことでチームとしてのレベルアップを図り、オリンピック出場権を勝ち取る。

また、昨年度から設定した日本代表に準ずるカテゴリーであるU-24日本代表、近年国際大会での活躍が目覚しいU-19以下の日本代表の強化にも力をいれ、2012年のロンドンオリンピック、2016年のリオ・デ・ジャネイロオリンピック開催時に、中心選手となる世代の選手育成を目的に強化活動を行っていく。

今年は、「第26回ユニバーシアード競技大会」、「第9回FIBA U-19女子世界選手権大会」、「第2回FIBAアジアU-16女子選手権大会」など、各年代の国際大会が開催される。これらの大会で上位を目指し、アンダーカテゴリーの強化による日本代表の底上げを図っていく。

中川文一ヘッドコーチのコメントとチーム作り方針

2年間、女子日本代表チームのヘッドコーチとして活動してきた節目の年として、ここで結果を出さなければいけないと、より気が引き締まる思いです。この女子日本代表候補選手は日本の最高のメンバーを選出しました。昨年9月に行われた世界選手権大会得点王の大神選手、アシスト王の吉田選手、そしてシューターの三谷選手が中心選手となります。また、渡嘉敷選手が入ったことでペイントエリア内での厚みが増し、心強く思っています。新加入選手たちも楽しみです。キャプテンは大神選手、副キャプテンは三谷選手となります。目標はひとつ、ロンドンオリンピック出場です。それを成し遂げねばならないことは分かっていますが、楽しくチーム一丸となって頑張っていきます。

[チーム作り方針]

①日本代表チームの原点に戻る

- ・何十万人もの競技者の頂点である
- ・日本を代表しているチームである
- ・みんなの目標である

以上に対してしっかり思いを持ち、喜びと誇りを持って取り組むこと

②チームの人間関係の構築

- ・お互いがスクラムを組んで戦うことが一番大事である
- ・強いチームは人間関係がしっかりしていることが強い確信になる
- ・選手同士の友情関係、スタッフと選手間の信頼関係を構築し、チームがひとつの方向に向かって進んでいく